

古写真や絵画で見る 仙台歴史散策

初卯の日

仙台市博物館 副館長兼学芸普及室長 高橋 あけみ

第14回

初卯の賀儀

令和二年の干支は子。同じように各日にも干支があてはめられている。そのため十二日ごとに子や丑、寅がまわってくる。

江戸時代、將軍家では正月十一日に、具足と具足餅と呼ばれる鏡餅を飾っていたが、仙台伊達家では正月ではなく、二月の最初の卯の日すなわち「二月の初卯の日」に具足や旗を飾り、具足餅を家臣に振る舞っている。これは「初卯の賀儀」といって、初代藩主伊達政宗の代に行われていた由緒のある行事である。たとえば天正十五年（一五八七）二月八日に「八日丁卯。初卯御祝儀アリ。」という記事が「貞山公治家記録」に見える。詳しい記述は四代藩主伊達綱村の代になって現れる。対面所と呼ばれる座敷の上段の間、床の上に具足二領を中心として、その左右に太刀や弓、采配、装束などを飾る。延宝六年（一六七八）に入手した伊達家始祖・朝宗所用と伝える「金塗軍配團扇」（仙台市博物館蔵）を、箱に入れたまま飾り、これに藩主は拝礼する。座敷の外のお白洲には濃紺色の「御重代の旗」、「日の丸旗」や八卦を記した「師の卦の旗」、そして奥州一宮大明神

の旗、つまり鹽竈神社の旗と亀岡八幡の旗が五旒ずつ飾られた。想像しただけで華やかな飾りである。

伊達家の具足飾り

藩主や世継ぎが初めて具足を着る「具足初めの儀」も二月の初卯の日が選ばれることがあった。寛文十二年（一六七二）の二月二日初卯の日には、当時数えの十四歳であった綱村の具足初めの儀式が行われた（「肯山公治家記録」）。

また、後年綱村の養子になった五代藩主・吉村は、藩主になる前から義父綱村と同じ初卯の日に、自分の住まいの書院に旗や具足を飾った。元禄十一年（一六九八）二月十日

の初卯の日には「紫糸威」の具足を飾っているが、これが「伊達吉村甲冑像」（下）に描かれた具足の可能性があり、かつ現存する「金小札紫糸威五枚胴具足」（伊達吉村所用・仙台市博物館蔵）ではな



「伊達吉村甲冑像」(部分) 狩野古信筆 瑞巖寺蔵

武神・八幡神への信仰

ところで、なぜ伊達家では「二月の初卯の日」に具足飾りを行ったのだろうか。

おそらくこの日は、武家にとって大切な武神・八幡神への信仰と関係するのだろう。石清水八幡宮（京都府）では、平安時代から二月の初卯の日に「初卯祭」という神事を行ったとされるが、これは二月の初卯の日に、宇佐地方（大分県）に八幡神が顕現したということに由来している。八幡社の総本宮である宇佐神宮（大分県）や多くの八幡社でも、同じ理由から「二月の初卯の日」にまつりを行っている。

伊達家でも同じ由来から、二月の初卯の日が八幡神に祈りを捧げるのに最適な日とされたのだろう。江戸時代、伊達家は古風な家柄と思われていたようであるが（「伊達氏史料」利根姫君仙台御入輿の事）、こうした儀礼にもそれが現れているように思うのである。

歴ネットイベント 仙台の伝統門松展示

江戸時代には仙台城や仙台北下でも飾られた、仙台に伝わる伝統的な門松を市内の歴ネット参加館で展示しています。2月でも見られる施設がありますので、ぜひご覧ください。

●令和元年度の門松展示施設(2月中にみられる施設)●

仙台市戦災復興記念館	2月9日(日)まで
仙台文学館	2月11日(火・祝)まで

「歴ネット」は「仙台歴史ミュージアムネットワーク」の略称です。仙台市内の9つの歴史・文化系の施設で結成され、様々な活動を行っています。（歴ネット事務局：仙台市博物館）
【歴ネット参加館】地底の森ミュージアム（仙台市富沢遺跡保存館）、仙台市縄文の森広場、史跡陸奥国分寺・尼寺跡ガイダンス施設、仙台市博物館、仙台北見閣、瑞鳳殿、仙台市歴史民俗資料館、仙台文学館、仙台市戦災復興記念館



仙台文学館での伝統的な門松展示の様子

《休館のお知らせ》

仙台市博物館は館内設備改修工事のため、下記の期間は休館させていただきます。ご不便をおかけしますがご了承くださいませようお願いいたします。

12月28日(土)
～
令和2年
3月31日(火)

仙台市博物館 TEL:022-225-3074 (休館中の電話受付時間 平日9:00～16:45)

SENDAI CITY MUSEUM 〒980-0862 仙台市青葉区川内26番地(仙台城三の丸跡) ツイッター @sendai_shihaku ▶博物館HP

仙台市博物館

検索